

政令指定都市移行から10年 各区の取り組みをまとめてみました

2012 ▶

2022



子育て・教育・都市計画などに関する権限や財源の多くが市に移譲され、区の特性を生かした魅力的なまちづくりが進んでいます。区ごとのこの10年の取り組みをご紹介します。

中央区

独自の取り組み①

にぎわいを生み出す、白川「緑の区間」

「緑の区間」(大甲橋～明午橋間)では、河川整備によって創出された河川空間や水辺環境を利用して、水辺とまちが一体となった美しい景観とにぎわいづくりに取り組んできました。平成30年からは「白川夜市」が開催されるなど、民間による活用も行われています。



独自の取り組み②

デジタルに親しみやすいまち

子どもたちが校区のホームページを作り地域の魅力を発信・発信する「近未来キャラバン」が平成29年にスタート。令和3年には「くまもとデジタルサポートセンター」を開設するなど、デジタル機器をより身近に感じられる取り組みを進めています。



独自の取り組み③

地域の歴史を守り未来につなぐ

平成28年熊本地震では地域の文化資源も多くの被害を受け、地域の方々と共に地域の歴史を守り未来へつなぐ大切さを再確認しました。令和3年には、水前寺成趣園の鳥居が全て再建され、築庭350年祭も執り行われました。



空きが目立つ商店街で 新たなまちの可能性を模索



おもき たけし
面木 健さん

上通アーケード沿いにある交流スペース「オモケンパーク」のオーナー。自ら立候補し、市の景観審議会委員(令和4年・5年度)を務める。

熊本地震で大きな被害を受けたビルを、敷地いっぱい3階建てのビルを建てるのではなく、小さな平家にダウンサイジングして再建。屋上や庭などの余白部分を「新たな価値」ととらえ、利用する人たちで分かち合うイベントを定期的に開催しています。

また、建物を通して小国杉をはじめ県産の魅力に自然と触れられる点も特徴。「この場所に興味を持つことが素材を生産しているローカルエリアまで足を運ぶ行動につながり、全体が活性化するとうれしいですね」と面木さん。「一人では一隅しか照らせないけど、賛同する人が増えれば面で輝く」。その信念で、可能性を発信し続けます。

南区

独自の取り組み①

おいしい南区魅力発信

全国屈指の生産量を誇るナスやトマトのほか、多彩な農水産物を生かした収穫体験や親子料理教室、フォト・レシピコンテストを開催。「農と漁業を誇るまちづくり」「南区の自然をいかしたまちづくり」を進めています。



独自の取り組み②

地域ブランド力の向上

まちづくりを担う人材の発掘育成や、まちづくりネットワークを構築し、自ら行動するまちづくり団体の結成を進めています。城南地域では城南地域ブランド力向上委員会「TEAM城南ワンダホー」が地域情報誌の発行や、婚活イベントなどを実施しています。



「食」で地元の魅力を発信



うえだ あかり
左/上田 朱里さん
あかほし ななみ
右/赤星 七海さん

熊本農業高校 生活科2年。授業の一環として、地元で取れる食材を使った地域特産品の開発などに取り組んでいる。

昨年夏に開催された「おいしい南区フォト・レシピコンテスト」に参加した、熊本農業高校生活科2年の皆さん。南区の豊かな農水産物をテーマにしたレシピ開発に挑戦し、「食」を通して南区の魅力を発信したそうです。「夏らしくさっぱりした味わいと、簡単な味付け、調理法にこだわりました。南区のことを知ってもらうきっかけになればうれしい」と、上田さんと赤星さん。今年は、自らテーマを決めて取り組む課題研究が待っています。「知恵を絞って地域活性化につなげていきたいです」。